

4. みどりの特徴と課題

4.1 みどりの特徴

(1) 土地・地形等の特徴

足立区は、東を中川、南を隅田川及び荒川、西を新芝川、北を毛長川～綾瀬川～堀川に囲まれた平たんな地形である。

古来この付近は、利根川および荒川の氾濫域であり、低湿地帯であったものを江戸時代前期よりの度重なる治水工事を経て新田開発が行われてきた地域である。

地質は、河川の流動によりできた、上層部が粘土、砂、礫などの沖積層で、軟弱な地盤で樹木が育つ環境には厳しい状況にある。

(2) 緑被状況からの特徴

図4-1に今回の実態調査の結果で、緑被率と樹木被覆地率を公有地・民有地の別や、各施設別に比較した結果を示す。

公有地、なかでも公園施設と公共集合住宅は緑被率が高く、区のなかでも貴重な緑地であることがわかる。一方で、公有地の施設のなかでも、幹線道路および公共施設は区全体より緑被率が低くなっていた。

民有地は、河川敷を除いた市街化区域全体の結果と比較しても、緑被率・樹木被覆地率ともに低い結果であった。

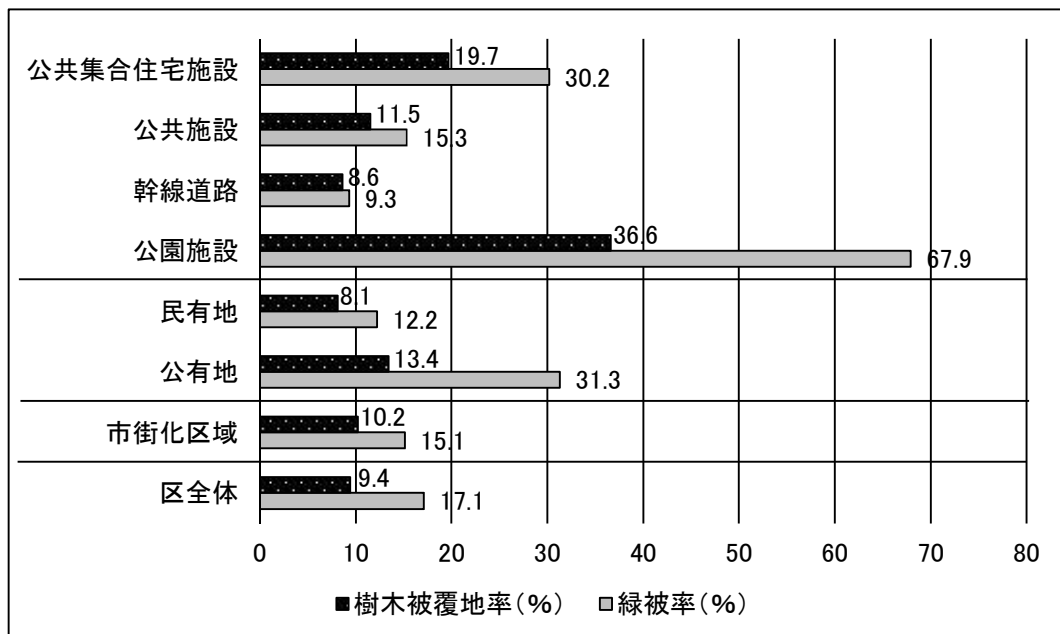


図 4-1 緑被率・樹木被覆地率

(3) 公園の特徴

区内の公園は平成 29 年 4 月現在、498 か所、322ha であった。前回調査と比較して、18 箇所、21ha 増加しており、区面積に対する公園面積であらわす公園率では、6.0%となっており、0.3 ポイント増加している。

図 4-2 に昭和 45 年(1970 年)からの公園面積の推移を示す。約 50 年で公園面積は 278ha、公園率は 5.2 ポイントも増加している。

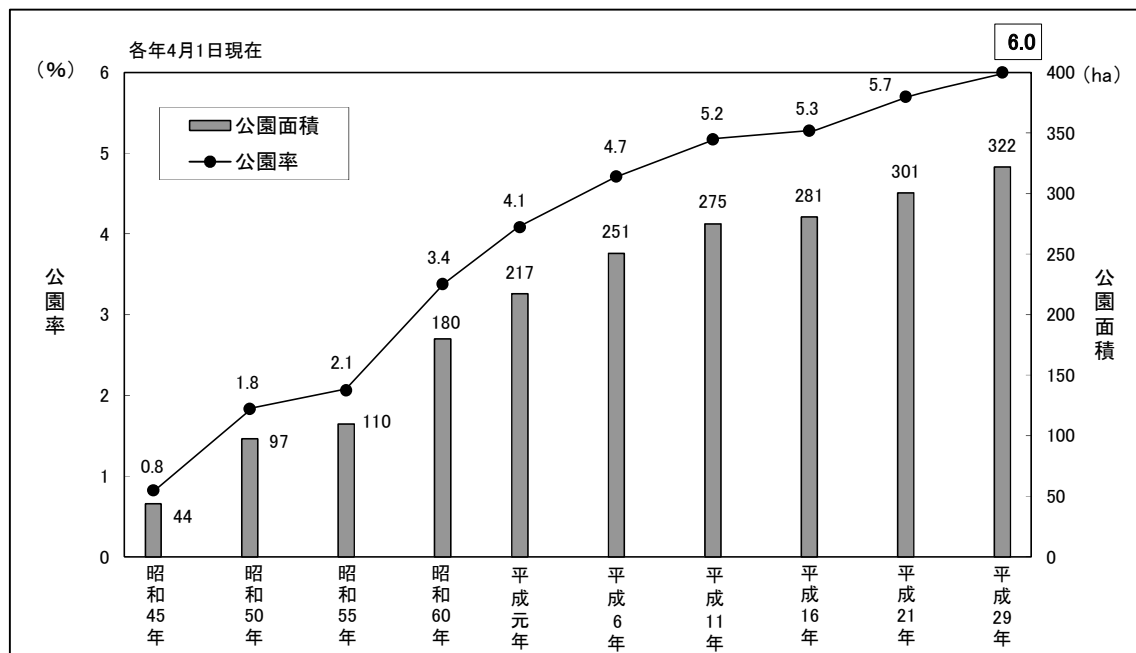


図 4-2 公園面積の推移

4.2 「足立区緑の基本計画」における目標値と実態の比較

平成 19 年 3 月に策定した「足立区緑の基本計画」では、平成 16 年の緑の実態調査結果を参考として、計画期間(※平成 28 年 9 月に当初の「平成 28 年度までの 10 年間」を「平成 31 年度までの 13 年間」に延伸)目標および策定時から概ね 50 年後を見据えた長期目標を表 4-1 のとおり設定している。

いずれの数値も目標設定時から増加しており、樹木被覆地率、公園率については計画期間目標を達成している。

表 4-1 緑の目標数値と実態調査結果

項目	H16(2004) 実態調査 結果	計画期間目標 (H31(2019)年度ま で)	H29(2017) 実態調査 結果	長期目標 (概ね2057年まで)
樹木被覆地率	7.7%	9.4%	9.4%	12.5%
緑被率	16.3%	18.1%	17.1%	25.0%
みどり率	23.7%	25.7%	24.2%	32.9%
緑視率	10.8%	15.8%	14.6%	25.0%
公園率	5.4%	5.8%	6.0%	7.1%

4.3 「緑の推進計画」における推計値と実態の比較

区では「緑の基本計画」の進捗状況を調査し、向こう 3 年間の推進計画を決める「緑の推進計画」を策定している。「緑の推進計画」では、従前の緑の実態調査結果から係数を設定し、公園整備面積や緑化計画の計画値等から、樹木被覆地面積等の推計値を算出している。

表 4-2 に示すように、今回の緑の実態調査結果と、「緑の推進計画」における推計値を比較したところ、実態は推計値を 1%以上、上回っていたことがわかった。

表 4-2 「緑の推進計画」の推計値と緑の実態調査結果

項目	H29 「緑の推進計画」に おける推計値	H29 緑の実態調査 結果
樹木被覆地面積	443.52ha	502.18ha
樹木被覆地率	8.3%	9.4%

4.4 みどりの課題と対策

今回の実態調査結果から、足立区のみどりの課題と対策について、以下のように整理した。

<緑地の保全・推進>

【課題】

- 樹木被覆地率・緑被率ともに減少はしていないが、他区と比較すると低く、特に民有地において、緑被率が低い。
- 緑被率・みどり率・緑視率においては、「緑の基本計画」の計画期間目標値を達成できていない。
- 短期的にみどりの目標・計画を設定するための、「緑の推進計画」の推計値が実態と開きがあった。



【対策】

- 特に民有地の既存緑地を保全していくとともに、開発や建築の際の更なる緑化を確保する方策が必要
- 植栽した樹木の樹冠を大きく育てるような、維持管理方針の検討
- 「緑の推進計画」の設定方法および推計値の算出方法の見直し

<公園緑地の整備・配置>

【課題】

- 公園率の目標値は達成しているが、地域によって偏りがあり、まとまった公園緑地がほとんどない密集市街地などでは、ヒートアイランド現象が発生し、地表面温度が高くなっている。



【対策】

- 公園不足地域がないような公園配置を検討
- 防災面も考慮し、公園と街路や緑道との緑のネットワーク網の形成

<景観>

【課題】

- 農地が減少傾向を辿っており、区から農の風景が失われつつある。
- 駅前や主要交差点での緑視率は、微増はしているが、今後具体的な対策がないままでは、目標値に届かない。



【対策】

- 農地＝緑地として、保全する地域を絞り、保全・活用を推進するための新たな方策の検討
- 多くの人が利用し、区のイメージを形成する駅前や主要交差点において、都市火災の延焼防止に資する観点からも、周辺施設の接道部、街路の緑化を推進

<区民との「協働」「協創」>

【課題】

- 緑を守っていくためには、周囲の理解や協力が必要だと考えている方が最も多く、たくさんの方の緑に対する理解・認識を深めていく必要がある。
- みどりに関する活動の種類としては、個人でできる活動をやってみたいという方が多かったが、そのサポート方法が未整備である。



【対策】

- 様々な手法(イベント、パンフレット、インターネットなど)で、緑の効用をより効果的にアピールしていく
- 緑の行政施策に協力するという観点で区民の活動を促進するだけではなく、区民が楽しく草花や木を育てる、地域の自然を楽しむ、地域の子供たちが遊べる場所を創る、といった多様で自由な観点により、みどりと親しむ人づくりの実施
- 区民活動や情報発信の拠点となる場・イベントの整備